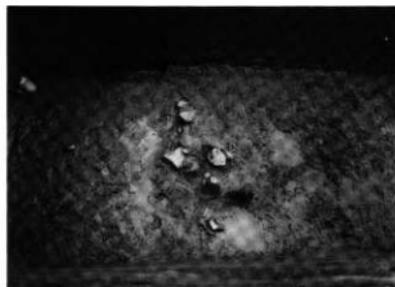




西トレンチ SK-5他（東から）



西トレンチ全景（北から）



西トレンチ SD-1瓦集積（西から）



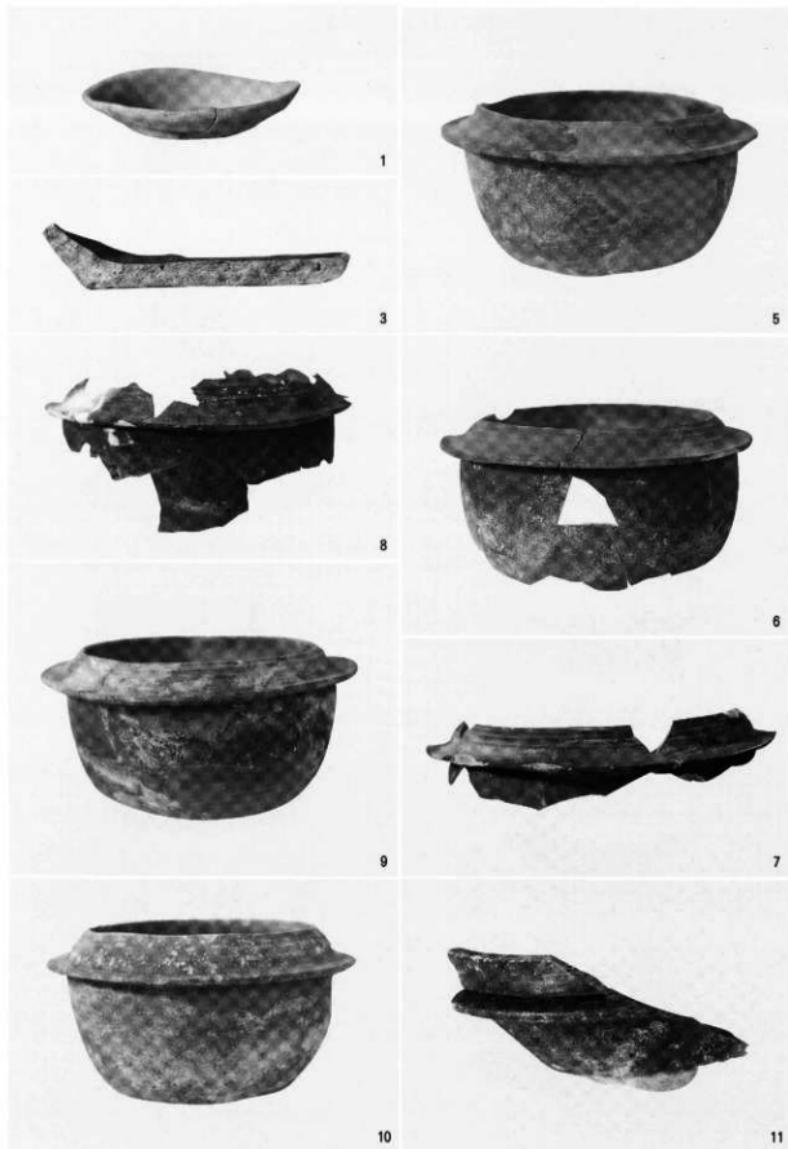
西トレンチ SK-6（東から）



西トレンチ調査風景（西から）



西トレンチ調査風景（北から）





14



15



17



18



20



19



19

21



22



23



24

14・15 SK-2

17 SK-3

18~21 SK-5

22~24 SK-6



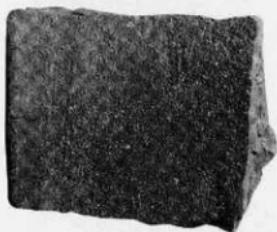
25



26



27



28



29



31



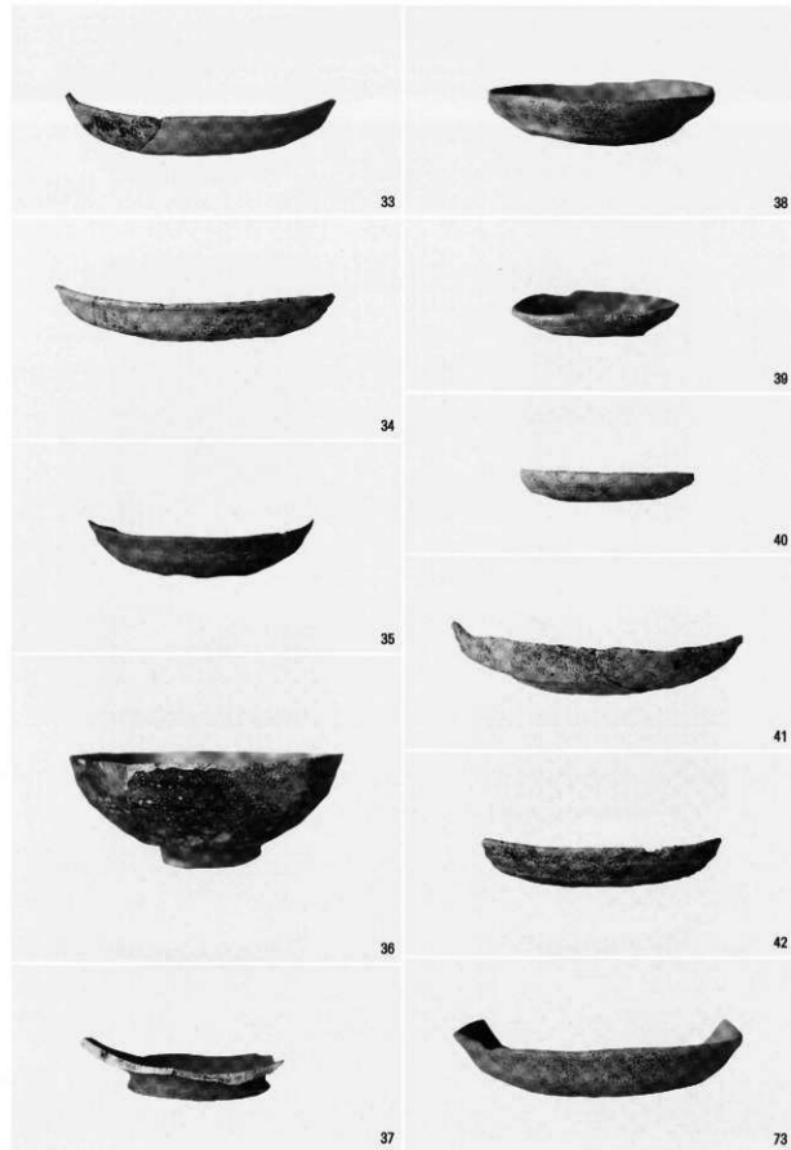
30



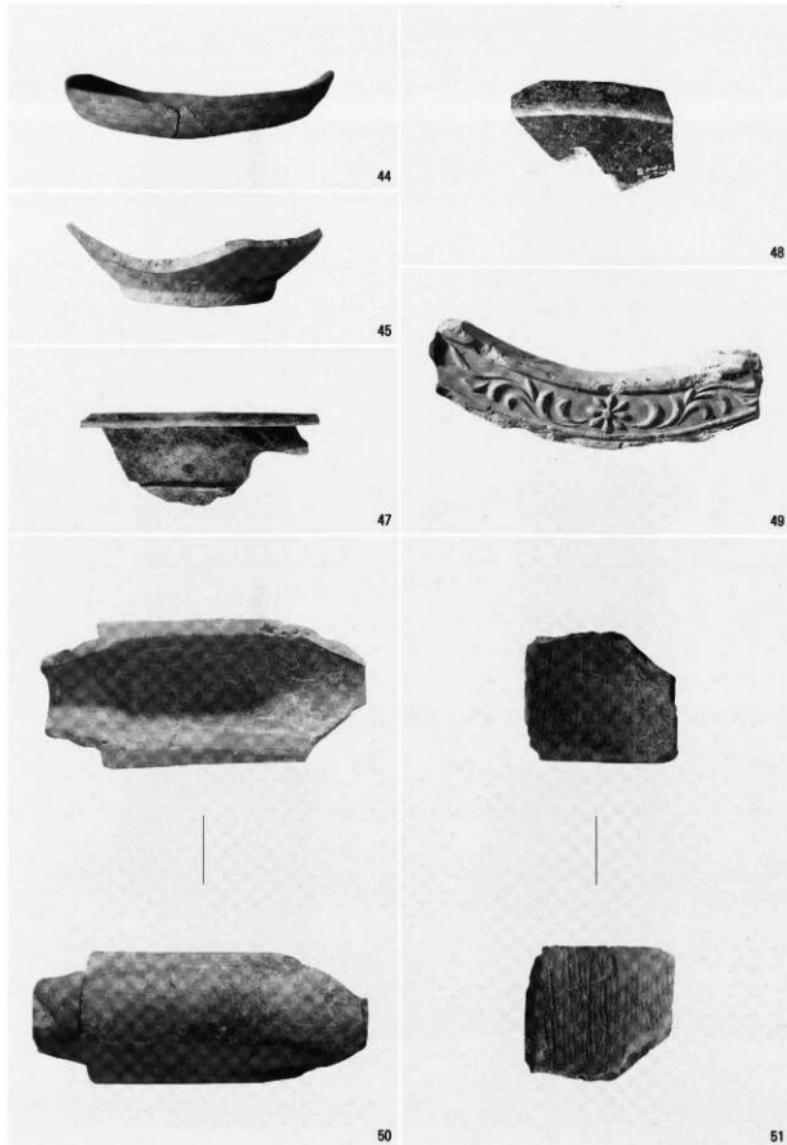
32

25~27 SK-6

28 SP-4 29~32 SP-25



33~37 SP-25 38~42、73 SD-1

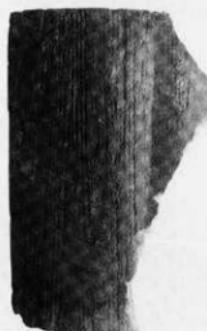




52



53



54

SD-1 出土遺物



55



56



57

SD-1 出土遺物



58



59



60



61

SD-1 出土遺物



62



63



64



65

SD-1 出土遺物



66



67



68



71



72



70



73



77



76



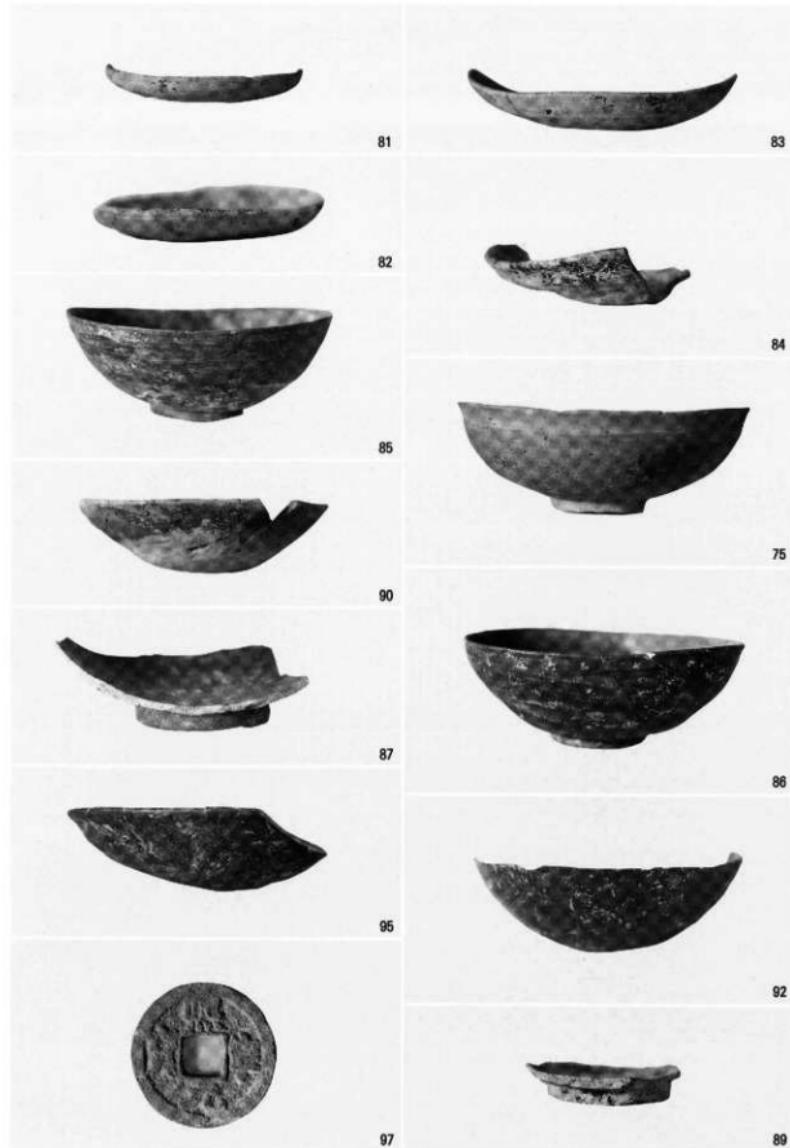
79



74



80



西トレーニチ包含層出土遺物

XII 山賀遺跡第6次調査（YMG97-6）

例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市新家町5・6丁目地内で実施した公共下水道工事（平成8年度新家排水区第5工区）に伴う発掘調査の報告書である。
1. 本書で報告する山賀遺跡第6次調査（YMC97-6）の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第139-3号 平成8年6月14日）に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成9年4月8日～4月15日（実働6日間）にかけて、樋口　薰を調査担当者として実施した。調査面積は約16m²である。
1. 現地調査にあたっては、朝田　要、坂田典彦（現東大阪市教育委員会嘱託）、西岡千恵子、西村和子の参加を得た。
1. 内業整理は、現地調査終了後、隨時実施し、平成11年8月31日に完了した。
1. 本書に関わる業務は、図面トレースー市森千恵子、岸田靖子、西岡、本書の執筆・写真撮影及び編集ー樋口が担当した。
1. 調査に際しては、写真・カラースライド・実測図を多数作成した。各方面での幅広い活用を希望する。

本文 目 次

第1章 はじめ	175
第2章 調査概要	176
第1節 調査方法と経過	176
第2節 基本層序	177
第3節 検出遺構と山上遺物	180
第3章 まとめ	180

挿 図 目 次

第1図 調査地周辺図 (S = 1/5000)	175
第2図 調査区位置図 (S = 1/200)	177
第3図 基本層序模式図 (S = 1/40)	179

表 目 次

表1 山賀遺跡調査地一覧表	176
表2 地層対応表	181

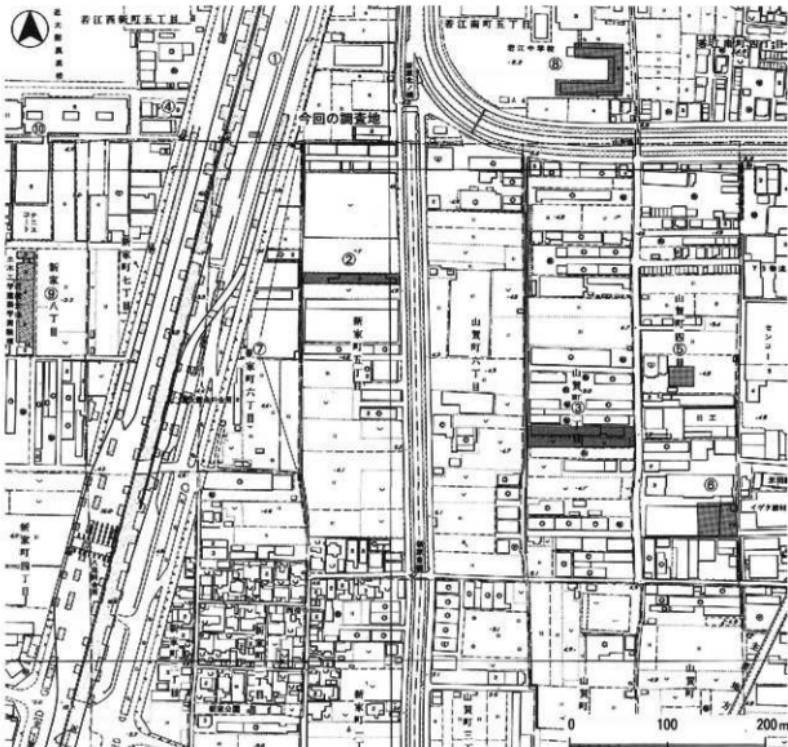
図 版 目 次

図版一 調査地周辺状況（南から）／西壁地層堆積状況（T.P.+2.0～3.4m） 北壁地層堆積状況（T.P.±0～+1.5m）／北壁地層堆積状況（T.P.-2.1～-0.5m） 作業風景（南から）／調査区完掘状況（南から）	
---	--

第1章 はじめに

大阪府の東部、現在の大和川と石川の合流する付近から北西方向に広がる河内平野は、東を生駒山地、西を上町台地、北を淀川、南を羽曳野丘陵に区画されている。この河内平野は、旧大和川の分流がもたらす沖積作用によって形成されている。今回報告する山賀遺跡は、この大平野の東部に位置する八尾市北西部および東大阪市南部に拡がり、現在の行政区画では、八尾市域の新家町1~8丁目・山賀町1~6丁目、東大阪市域の若江西新町5丁目・若江南町4~5丁目の東西約0.85km、南北約1.0kmがその範囲と推定される。地形的には、海拔4~5mの河内平野中央部にあたり、旧大和川の分流であった古捕根川の沖積作用により形成された自然堤防や後背湿地などの微地形を利用して集落が営まれているものと推定されている遺跡である。

本遺跡は、昭和46年に東大阪市域で実施された楠根川改修工事の際、初めてその存在が確認さ



第1図 調査地周辺図 (S = 1/5000)

れた。その後、大阪府教育委員会・(財) 大阪文化財センター・東大阪市教育委員会・(財) 東大阪市文化財協会・八尾市教育委員会・当調査研究会により多次にわたる調査が実施され、縄文時代～近世に至る複合遺跡として認識されるようになってきた。なかでも、昭和54年～60年にかけて行われた、近畿自動車道路建設に伴う発掘調査〔山賀(その1)～山賀(その6)〕で明らかになった弥生時代前期中段階の集落の存在は、河内平野の稲作導入期の動向を知る上で貴重な資料を提供している。

当遺跡周辺には、多くの遺跡が存在する。東には豈振遺跡・西郡庵寺遺跡、西には小若江北遺跡(東大阪市)、南には美國遺跡、北には若江北遺跡(東大阪市)、北西には上小阪遺跡(東大阪市)が所在する。

当遺跡では、既に当調査研究会により5次にわたる調査が実施されている。なかでも、第3次調査(YMG94-3)では、標高T.P.+2.0m前後において弥生時代前期の遺構・遺物が検出されており、近畿自動車道建設に伴う山賀遺跡(その3)の調査を含めて広範囲に及ぶ集落が想定されるに至っている。

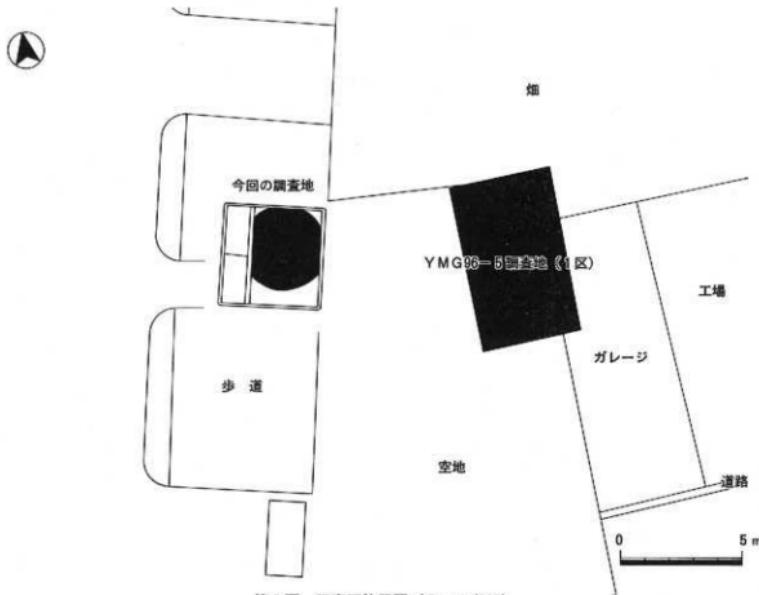
表1 山賀遺跡調査他一覧表(地図番号は第1図に対応)

地図番号	調査名	調査地番	調査原因	調査機関
①	山賀その1	東大阪市若江南町4丁目	近畿自動車道天理～吹田線建設	(財) 大阪文化財センター
①	山賀その2	東大阪市若江南町5丁目・八尾市新家町3・4・4丁目	近畿自動車道天理～吹田線建設	(財) 大阪文化財センター
①	山賀その3	八尾市新家町7丁目	近畿自動車道天理～吹田線建設	(財) 大阪文化財センター
①	山賀その4	八尾市新家町4丁目	近畿自動車道天理～吹田線建設	(財) 大阪文化財センター
①	山賀その5・6	東大阪市若江西新町5丁目・八尾市新家町3・4・6・7丁目	近畿自動車道天理～吹田線建設	大阪府教育委員会・(財) 大阪文化財センター
②	山賀62-543	八尾市新家町5丁目14-1	倉庫建設	八尾市教育委員会
③	山賀63-044	八尾市山賀町5丁目52-1	工場建設	八尾市教育委員会
④	YMG93-1	八尾市新家町7丁目	公共下水道	(財) 八尾市文化財調査研究会
⑤	YMG94-3	八尾市山賀町4丁目34-1・35-1	研修施設・寮建設	(財) 八尾市文化財調査研究会
⑥	YMG96-4	八尾市山賀町4丁目53-3	変電所建設	(財) 八尾市文化財調査研究会
⑦	YMG96-5	八尾市新家町5・6丁目	公共下水道	(財) 八尾市文化財調査研究会
⑧	山賀	東大阪市若江南町5丁目345	市立中学校新設	東大阪市教育委員会
⑨	山賀	八尾市新家町8丁目23-1	近畿大学理工学部研究棟建築	近畿大学
⑩	山賀第4次	東大阪市若江西新町121・八尾市新家町7丁目13	下水道	近畿大学

第2章 調査概要

第1節 調査方法と経過

今回の発掘調査は、山賀遺跡を縦断する近畿自動車道天理～吹田線に東接する、八尾市新家町5・6丁目地内で行われた公共下水道工事(8-5工区)に先立って実施したもので、当調査研究会が山賀遺跡内で行った第6次調査(YMG97-6)にあたる。調査区は一箇所である。調査



第2図 調査区位置図 (S = 1/200)

区平面形状は円形で、調査面積は約16m²を測る。

調査は、立坑内に径約4mのライナー管を敷設する工事と並行して行わなければならず、したがって工事の進捗状況に合わせて調査は進行し、工事による掘削が終了する時点まで実施した。

調査方法は、八尾市教育委員会作成の埋蔵文化財調査指示書に基づき、現地表(T.P.+4.78m)下1.6m前後までを機械掘削とし、以下は、工事による最終掘削深度である現地表下6.8m(T.P.-2.02m)までの5.2mを人力掘削と機械掘削を併用して行い、調査区の北、または西に地層観察用の壁面を残しながら掘り下げていき、遺構・遺物の検出に努めた。調査期間は、平成9年4月8日～4月15日(実働6日間)である。

第2節 基本層序

本調査では、現地表面下1.6m(T.P.+3.2～4.8m)前後に存在する擾乱および客土層を第0層とした。以下、現地表下1.6～6.8m(T.P.-2.0～+3.2m)の5.2m内において普遍的に存在する3層を摘出して基本層序とした。以下、各層について概説する。

第0層 盛土および搅乱層。層厚は約1.6mを測る。NTT管などの埋設工事に伴うものと思われる。

第1層 5Y4/1灰色細礫～中礫混粘土。酸化鉄分の沈着が顕著に認められる地層である。地層内に礫が散在する様相は耕作土を想定させる。しかし、本層が旧耕土に該当するかは不明である。層厚約0.3m。

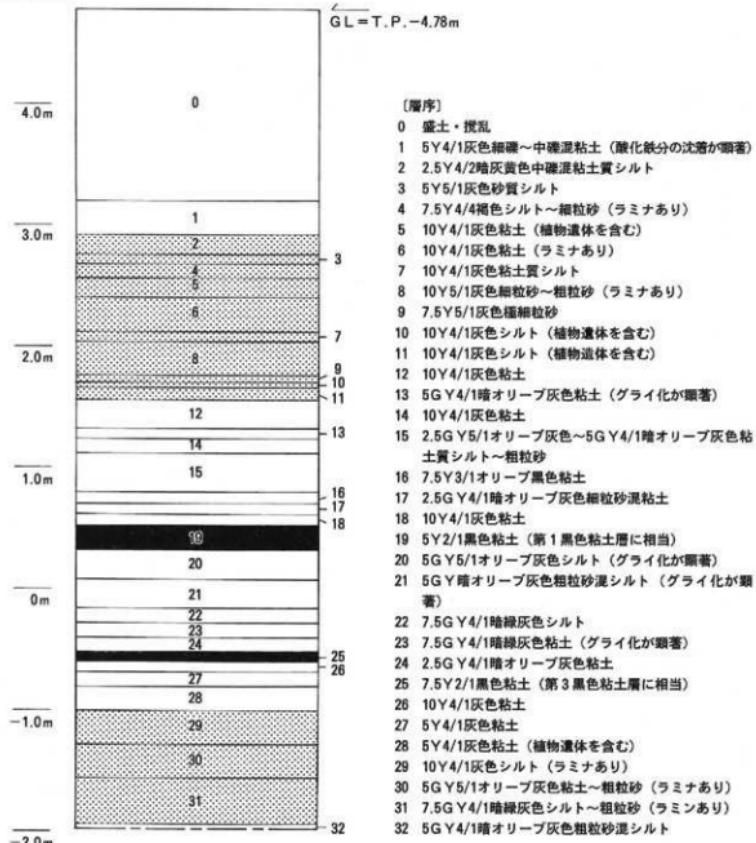
- 第2層 2.5Y4/2暗灰黄色中礫混粘土質シルト。層厚は約0.15mである。下層で検出された水成堆積層の土壤化した部分が本層に比定される。
- 第3層 5Y5/1灰色砂質シルト。層厚約0.1mを測る。水成堆積層である。
- 第4層 7.5Y4/4褐色シルト～細粒砂。層厚約0.1m。シルト～細粒砂のラミナで構成された地層である。ラミナの傾きはほぼ平行である。
- 第5層 10Y4/1灰色粘土。植物遺体を極少量含む。層厚約0.15m。
- 第6層 10Y4/1灰色粘土。植物遺体がラミナ状に介在する水成堆積層である。上層の第5層同様、閉塞した静水域で形成された地層といえる。層厚は約0.3mを測る。
- 第7層 10Y4/1灰色粘土質シルト。層厚約0.1m。
- 第8層 10Y5/1灰色細粒砂～粗粒砂。水平ラミナ構造が顕著に認められる地層である。植物遺体もラミナ状に介在する。層厚は約0.3mである。
- 第9層 7.5Y5/1灰色極細粒砂。流水堆積層である。層厚約0.05m。
- 第10層 10Y4/1灰色シルト。植物遺体を含む。水成堆積層であるがラミナなどの流水を示唆する様相は認められない。堆水状態時に形成された地層である。層厚は約0.05mを測る。
- 第11層 10Y4/1灰色シルト。植物遺体を含む。第10層と同じような過程で形成された地層と思われる。ただし、第10層と比較するとよく締まった地層である。したがって、本層上面は一時期土壤化していた可能性が考えられる。層厚約0.1m。
- 第12層 10Y4/1灰色粘土。ピュアな粘土層である。本層上面では変形構造が認められた。平面的に検出することができず断定はできないが、周辺における過去の調査からは同レベルにおいて地震動に伴う変形構造は報告されておらず、したがって地震動に伴うものの可能性は低い。足跡などの踏み込み痕であろうか。層厚は約0.2mを測る。
- 第13層 5GY4/1暗オリーブ灰色粘土。堆水状態時に形成された地層である。グライ化が著しい。層厚約0.1m。
- 第14層 10Y4/1灰色粘土。ピュアな粘土層である。層厚約0.1m。
- 第15層 2.5GY5/1オリーブ灰色～5GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト～粗粒砂。河川内埋土を想定させるようなラミナ構造が顕著な地層である。粒度組成は上方に向かうにつれて粗粒化の傾向にある。また、上方は下方に比べてよく締まっており、一時期土壤化していた可能性が高い。層厚は約0.3mを測る。
- 第16層 7.5Y3/1オリーブ黒色粘土。層厚は約0.1mである。
- 第17層 2.5GY4/1暗オリーブ灰色細粒砂混粘土。細粒砂が散在する様相は、本層が土壤化していた可能性を示唆する。なお、本層においては、攪拌を受けていたことを示すブロック上の存在や鞋印の存在は認められなかったが、(財)大阪文化財センターが実施した近畿自動車道建設に伴う発掘調査〔山賀(その2)〕では、同レベルにおいて弥生時代中期前葉に比定される水田を検出していることから、本層もそれに相当する可能性が高い。層厚約0.1m。
- 第18層 10Y4/1灰色粘土。ピュアな粘土層である。層厚約0.1m。
- 第19層 5Y2/1黒色粘土。植物遺体や炭化物を多量に含む黒色粘土層である。本層は、(財)大阪文化財センターが実施した近畿自動車道建設に伴う発掘調査〔山賀(その1)〕～

Ⅲ 山東遺跡第6次調査 (YMG97-6)

山賀（その5・6）]で検出されている第1黒色粘土層に相当する。層厚は約0.2mを測る。

- 第20層 5GY5/1オリーブ灰色シルト。堆水状態時に形成された地層である。グライ化が顕著である。層厚約0.2m。
- 第21層 5GY4/1暗オリーブ灰色粗粒砂混シルト。流水堆積層である。第20層同様、グライ化が著しい。層厚は約0.2mである。
- 第22層 7.5GY4/1暗緑灰色シルト。堆水状態時に形成された地層である。層厚約0.1m。
- 第23層 7.5GY4/1暗緑灰色粘土。グライ化が著しいビュアな粘土層である。堆水状態時に形

T.P.+5.0m



第3図 基本層序模式図 (S = 1/40)

- 成された地層である。層厚は約0.1mを測る。
- 第24層 2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土。層厚約0.1m。
- 第25層 7.5Y2/1黒色粘土。本層は、(財)大阪文化財センターが実施した近畿自動車道建設に伴う発掘調査〔山賀(その1)～山賀(その5・6)〕で検出されている第3黒色粘土層に相当する。層厚約0.1m。
- 第26層 10Y4/1灰色粘土。ピュアな粘土層である。堆水状態時に形成された地層である。層厚約0.05m。
- 第27層 5Y4/1灰色粘土。層厚は約0.1mを測る。
- 第28層 5Y4/1灰色粘土。植物遺体を極少量含む粘土層である。層厚約0.2m。
- 第29層 10Y4/1灰色シルト。水流堆積層である。水平に発達したラミナ構造が顕著に観察され、植物遺体もラミナ状に介在する。層厚約0.3m。
- 第30層 5GY5/1オリーブ灰色粘土～粗粒砂。粘土～粗粒砂で構成されたラミナ層である。粒度組成は上方に向かうにつれて粗粒化する。層厚約0.3m。
- 第31層 7.5GY4/1暗緑灰色シルト～粗粒砂。シルト～粗粒砂のラミナで構成された水流堆積層である。層厚約0.4m。
- 第32層 5GY4/1暗オリーブ灰色粗粒砂混シルト。層厚は0.05m以上である。

第3節 検出遺構と出土遺物

遺構は検出されなかった。遺物は、T.P.+2.5m付近(第5層)から木杭の残片1点を検出したのみである。法量は、長さ34.5cm、径7.0cmを測る。丸太の先端は機械による加工を受けており、先端断面は正三角形を呈する。時期は不明であるが、現代のものであろう。

第3章 まとめ

今回の調査では、明確な遺構および各層の時期を決定付けるに有効な遺物の出土は認められなかった。しかし、小面積ながらも現地表下6.8m前後の深さまで地層観察を行うことができ、その結果、既往の調査で検出された地層の平面的な拡がりが本調査区でも確認できたことは有意義であった。以下、主に(財)大阪文化財センターが実施した近畿自動車道建設に伴う発掘調査〔山賀(その1)～山賀(その5・6)〕に対応する地層について列記し、まとめにかえたい。

まず、本調査区で検出された第19層・第25層は、(財)大阪文化財センターの調査でいう第1黒色粘土(弥生時代前期)・第3黒色粘土(縄文時代後期)にそれぞれ対応する。この2条の黒色粘土帯は、本調査区の西側約10mの地点で実施された当調査研究会による第5次調査でも確認されており、平面的にさらに西方へ拡がることが確実である。また、(財)大阪文化財センターの調査では、T.P.+0.5～0.6m前後において弥生時代中期前葉に比定される水田を検出しているが、本調査区では第17層がそれと対応する可能性が高く、当該期の生産域の拡がりを知る上で貴重な成果といえる。一方、本調査では、3時期の水流堆積層を確認した。上層から、T.P.+1.8～2.9m前後に存在する第2層～第11層、T.P.+0.8～1.1m前後に存在する第15層、T.P.-2.0～-1.0m前後に存在する第29層～第31層である。これらの地層は、それぞれ(財)大阪文化財セン

ターや当調査研究会の調査で確認されている弥生時代後期後葉・弥生時代中期前葉～後葉・縄文時代後期以前の河川にそれぞれ対応するものと考えられる。最後に、本調査区で確認した堆積地層と本調査地周辺における既往の調査結果とを照らし合わせ、対応する地層を抽出し表にした（表2）。参照されたい。

表2 地層対応表

調査地点			時期	備考
(財)大阪文化財センター山賀（その2）	今西の調査地	(財)八尾市文化財調査研究会 山賀遺跡第5次調査第1区		
第6層	第2層～第11層	第108層～第109層	弥生時代後期後葉	河川
第17層	第15層	相当層不明	弥生時代中期前葉～後葉	河川
第17層	第15層	第112層	弥生時代中期前葉～後葉	河川
第18層	第17層	相当層不明	弥生時代中期前葉	水田
第20層	第19層	第115層	弥生時代前期	第1黒色粘土
第22層	第25層	第121層	縄文時代後期	第3黒色粘土
第24層	第29層～第31層	第122層～第124層	縄文時代後期以前	河川

参考文献

- 中西靖人・杉本二郎他 1983. 9 「山賀（その1）」大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
- 森井貞雄・高橋雅子他 1983. 11 「山賀（その2）」大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
- 上西美佐子・西口陽一・宮野淳一他 1984. 2 「山賀（その3）」大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
- 生田義道・石神幸子・小山田宏一・小林義孝他 1983. 10 「山賀（その4）」大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
- 岸本道昭・田中和弘他 1986. 3 「山賀（その5・6）」大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
- 赤木克視・村上年生編 1987. 3 「河内平野遺跡群の動態Ⅰ」大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
- 近江俊秀 1989「6.山賀遺跡（62-543）の調査」『八尾市文化財報告19』八尾市教育委員会
- 近江俊秀 1989「9.山賀遺跡（63-044）の調査」『八尾市文化財報告19』八尾市教育委員会
- 成海佳子 1994. 10 「IX山賀遺跡第1次調査（YMG93-1）」『(財)八尾市文化財調査研究会報告43』(財)八尾市文化財調査研究会
- 成海佳子 1994. 10 「X山賀遺跡第2次調査（YMG93-2）」『(財)八尾市文化財調査研究会報告43』(財)八尾市文化財調査研究会
- 原田昌則 1994「31.山賀遺跡第3次調査（YMG94-3）」『平成6年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会
- 森本めぐみ 1998「II X山賀遺跡（第5次調査）」『(財)八尾市文化財調査研究会報告60』(財)八尾市文化財調査研究会

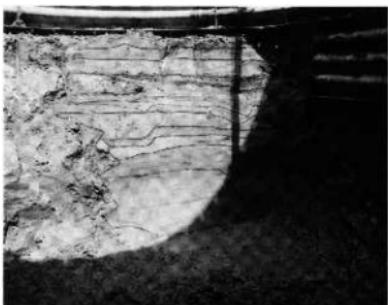
図 版



調査地周辺状況（南から）



西壁地層堆積状況（T.P.+2.0~3.4m）



北壁地層堆積状況（T.P.±0~+1.5m）



北壁地層堆積状況（T.P.-2.1~-0.5m）



作業風景（南から）



調査区完掘状況（南から）

報告書抄録

ふりがな 書名	ざいだんほうじん やおしづんかざいちょうさけんきゅうかいほうこく66						
副書名	財団法人 八尾市文化財調査研究会報告66						
シリーズ番号	I 老原遺跡（第9次調査） II 魚井遺跡（第5次調査） III 久宝寺遺跡（第20次調査） IV 佐堂遺跡（第1次調査） V 太子堂遺跡（第7次調査） VI 太子堂遺跡（第8次調査） VII 東郷遺跡（第54次調査） VIII 中田遺跡（第36次調査） IX 中田遺跡（第37次調査） X 中田遺跡（第38次調査） XI 八尾寺内町（遺跡第3次調査） XII 山賀遺跡（第6次調査）						
シリーズ番号	66						
編著者名	I・V・W・西村公助、II・X・古川晴久、III・坪田真一、IV・原田昌則、VI・XI・高萩千秋、VII・IX・XX・猪口 薫						
編集機関	財団法人 八尾市文化財調査研究会						
所在地	〒581-0821 大阪府八尾市幸町4丁目58-2 TEL・FAX 0729-944-4700						
発行年月日	西暦2000年3月31日						
所轄遺跡名	所 在 地	コ ー ド	北 緯	東 経	調 査 期 間	調査面積 (m ²)	調 査 原 因
老原遺跡 (第9次調査)	大阪府 八尾市 老原1丁目地内	27212	-	343612	1353644 19980210 ~ 19980223	23.4	公共下水道
龜井遺跡 (第5次調査)	大阪府 八尾市 龜井町1・2丁目、 藤原本町4丁目地内	27212	-	34653	1353454 19970512 ~ 19970519	31.68	公共下水道
久宝寺遺跡 (第20次調査)	大阪府 八尾市 大字淡川地内	27212	-	343708	1353514 19960924 ~ 19961114	145.3	駅舎自由通路整備
佐堂遺跡 (第1次調査)	大阪府 八尾市 佐堂町1丁目	27212	-	343749	1353546 19950420 ~ 19950509	280	共同住宅
太子堂遺跡 (第7次調査)	大阪府 八尾市 太子堂4・6丁目地内	27212	-	343627	1353518 19970302 ~ 19970420	94	公共下水道
太子堂遺跡 (第8次調査)	大阪府 八尾市 太子堂5丁目地内	27212	-	343627	1353518 19990111 ~ 19990205	384	道路建設
東郷遺跡 (第54次調査)	大阪府 八尾市 北本町2丁目	27212	-	343742	1353619 19970616 ~ 19970619	64	防火水槽設置
中田遺跡 (第38次調査)	大阪府 八尾市 中田2丁目	27212	-		19970527 ~ 19970724	28	公共下水道
中田遺跡 (第37次調査)	大阪府 八尾市 刑部2・3丁目地内	27212	-	343637	1353718 19970805 ~ 19970820	80	公共下水道
中田遺跡 (第38次調査)	大阪府 八尾市 刑部4丁目地内	27212	-	343640	1353720 19971020 ~ 19971023	29	公共下水道
八尾寺内町遺跡 (第3次調査)	大阪府 八尾市 本町3丁目	27212	-	343722	1353601 19960607 ~ 19960622	104	共同住宅
山賀遺跡 (第6次調査)	大阪府 八尾市 新家町5・6丁目地内	27212	-	343850	1353602 19970408 ~ 19970415	16	公共下水道

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
老原遺跡 (第9次調査)	集落	鎌倉時代～室町時代	小穴5、溝1	土師器・須恵器・瓦器などの小片	
鬼井遺跡 (第5次調査)	集落	弥生時代中期後半	落ち込み状遺構1	IV様式の弥生土器(広口型・短頭型・長距蓋)・土師器・須恵器の小片	
久宝寺遺跡 (第20次調査)	集落	古墳時代中期以前	溝1・ピット2	弥生土器(前期～後期)・布留式土器	古墳時代中期～後期の河川から明確な壠構造は検出されなかったが、壠の跡材とおもわれる大量の木製品が出土した。
		古墳時代中期	河川1	須恵器・鏡先・壠の部材	
		古墳時代後期	河川1		
		平安時代後期～中世	溝3・土坑3・ピット1	井戸の桶鉢・瓦錠・瓦・陶磁器・土師器小皿・瓦器輪・土製筋鉢平・動物の骨・木製くり物柄	
		近世	井戸1・ピット8・溝3・畦畔状遺構・不定形土坑・落ち込み		
佐堂遺跡 (第1次調査)	集落	平安時代末期以前 平安時代末～室町時代中期 近世	土坑5・溝7 井戸6・土坑 自然河川1	土師器 上師器・瓦器・瓦質土器・中国産磁器	
太子堂遺跡 (第7次調査)	集落	平安時代後期	井戸1・土坑2・小穴4・溝3	土師器・瓦器輪・瓦	
太子堂遺跡 (第8次調査)	集落	奈良時代～鎌倉時代	井戸2・土坑4・溝3・落込み1・小穴4・水田遺構1	円筒埴輪・須恵器・黒色土器・13世紀後半頃の瓦器輪・土師器小皿・瓦など	
東郷遺跡 (第54次調査)	集落	弥生時代後期～古墳時代前期	土坑2・溝1	甕	
		古墳時代後期	土坑1	須恵器杯身・土師器鍋	
		平安時代後期	井戸1・溝1・落ち込み1	瓦器輪・その他の井戸内より耳環1点出土	
中田遺跡 (第36次調査)	集落	弥生時代後期	土坑1	弥生土器(V様式)	
中田遺跡 (第37次調査)	集落	弥生時代後期～古墳時代前期	土器朱絆・溝	弥生土器(I・V様式)・庄内土器・土師器・須恵器・埴輪など	
		奈良時代	小穴		
中田遺跡 (第38次調査)	集落	弥生時代後期	自然河川?	弥生土器(V様式)	
		古墳時代末期～奈良時代	溝1	上師器(煮焚其用土師器片)	
		平安時代末期	曲物井戸1	瓦器輪(人和型1・和泉型1)	
八尾寺内町遺跡 (第3次調査)	集落	平安時代後期～鎌倉時代後期	井戸1・土坑6・小穴46	土師小皿・巾皿・瓦器輪・瓦・古錢2(保賀元寶・昭慶元寶)	
		室町時代	小穴7・溝1	土師小皿・瓦質羽釜・石鍋など	
山賀遺跡 (第6次調査)	集落	縄文時代後期～弥生時代後期	対応する地層確認	-	

八尾市文化財調査研究会報告66

- I 老原遺跡（第6次調査）
- II 亀井遺跡（第5次調査）
- III 久宝寺遺跡（第20次調査）
- IV 佐堂遺跡（第1次調査）
- V 太子堂遺跡（第7次調査）
- VI 太子堂遺跡（第8次調査）
- VII 東郷遺跡（第54次調査）
- VIII 中田遺跡（第36次調査）
- IX 中田遺跡（第37次調査）
- X 中田遺跡（第38次調査）
- XI 八尾寺内町遺跡（第3次調査）
- XII 山賀遺跡（第6次調査）

発行 平成12年3月
編集 財團法人 八尾市文化財調査研究会

〒581-0821
大阪府八尾市幸町4丁目58番地の2
TEL・FAX 0729-94-4700

印刷 明新印刷株式会社
表紙 レザック66 <260kg>
本文 書籍用紙 <70kg>
図版 マットアート <70kg>

